

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm² スランプ 18 cm

鉄筋：D10～D16:SD295

※ S-01を要確認

■ 鉄筋のかぶり厚さ（単位：mm）

構 造 部 分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の 立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基 礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コン クリートの設計 基準強度の範囲 (N/mm ²)	定 着 の 長 さ		特別の定着及び 重ね継手の長さ (L ₁)
		一 般 (L ₂)	下端筋(L ₃)	
			床・屋根スラブ	
SD295	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継 手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない

2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする

3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようにする)

L₁

1.5L₁以上

L₁

約0.5L₁

※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。

2段主筋
間隔(芯々)
60mm

2段主筋
間隔(芯々)
60mm

2段主筋
間隔(芯々)
60mm

2段主筋
間隔(芯々)
60mm

設計かぶり50
(最小かぶり40)

設計かぶり50
(最小かぶり40)

設計かぶり40
(最小かぶり30)

設計かぶり70
(最小かぶり60)

立上り筋定着 35d以上
D10→350mm

スラブ筋定着
10dかつ150mm以上
D13→150mm以上

重ね継手 40d以上

※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着、継手を設けることとする。
認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。
認定ユニット鉄筋の評定を順守すること
※基礎断面図はユニット鉄筋として作図してあります。
※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。
床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。
※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。
※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。
①不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、
型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
②根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
③根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水してしまうおそれがある場合は散水する。
④規定のスラブ厚を確保する。

FS1

▽1FL

▽設計GL

縦横共
D13 @200

防湿フィルム
0.1mm以上

ステコン

砕石

FGu1

▽1FL

▽設計GL

内部

外部

1-D16

1-D16

D10

D10 @200

FGu1A

▽1FL

▽設計GL

内部

外部

2-D16

2-D16

D10

D10 @200

FGu2

▽1FL

▽設計GL

内部

外部

1-D13

1-D13

D10

D10 @200

FGu2A

▽1FL

▽設計GL

1-D13

D10

D10 @200

柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

1-D13

柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

FGu3

▽1FL

▽設計GL

1-D13

D10 @200

柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

1-D13

柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

ダイガク

二級建築士事務所

構造設計者 ダイガク二級建築士事務所
二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号
二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学

DRAWING BY :
DATE :

施主承諾

営業

設計

工事

訂正図面作成日
訂正日 H
訂正日 H
訂正日 H
訂正日 H

MEMO

PROJECT TITLE
令46条第2項ルート 2階建て

DRAWING TITLE
基礎断面図

SCALE
S=1/30

SHEET NO
S-10a

使用材料
コンクリート： $F_c=21 \text{ N/mm}^2$ スランプ 18 cm
鉄筋： D10～D16:SD295
※ S-01を要確認

構 造 部 分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基 礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び 重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃)	
			床・屋根スラブ	
SD295	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。

The diagram illustrates the reinforcement configuration for a beam-column joint. Key components include:

- Main Reinforcement:** Two-stage main bars (2段主筋) are shown with a spacing of 60mm (間隔(芯々) 60mm). The top bar has a design length of at least 40d (設計かぶり40 (最小かぶり30)), and the bottom bar has a design length of at least 70d (設計かぶり70 (最小かぶり60)).
- Joint Region:** The central area where the beam and column meet.
- Column Reinforcement:** Vertical bars with a design length of at least 150 (設計かぶり150).
- Beam Reinforcement:** Horizontal bars with a design length of at least 35d above the slab (立上り筋定着 35d以上 D10→350mm).
- Slab Reinforcement:** Top bars in the slab with a design length of at least 150mm above the slab (スラブ筋定着 10dかつ150mm以上 D13→150mm以上).
- Other Details:** A lap splice (重ね継手) of at least 40d is indicated for the bottom bars.

Technical drawing of a bridge deck cross-section showing reinforcement details. The drawing includes dimensions for the deck width (605), height (370), and reinforcement layout. Key features include 4-D16 bars at the top, D13 @200 ST bars in the middle, and 4-D16 bars at the bottom. The drawing is labeled "▽1FL" and "▽設計GL".

[illegible]

Figure 22: D-D Section. This diagram illustrates the cross-section of a concrete slab and column. The column has a diameter of 1000mm (1000φ) and is reinforced with 1-D13 bars. The slab has a thickness of 150mm and is reinforced with 4-D16 bars. The diagram also shows the reinforcement details for the column and slab, including the use of D10 bars at 200mm and 300mm spacing. The diagram is labeled 'D-D 断面' and '外部'.

Technical drawing of a reinforced concrete slab cross-section. The drawing shows a slab with a total width of 605mm and a central width of 455mm. The slab is supported by a wall on the left and a column on the right. The wall has a thickness of 75mm. The slab has a thickness of 150mm. The drawing includes dimensions for the slab width, wall thickness, and slab thickness. It also shows the reinforcement details, including 4-D13 bars at the top and bottom, and D13 bars at 200mm spacing. The drawing is labeled with '▽1FL' and '▽設計GL'.

[illegible][illegible]

PROJECT TITLE		SHEET NO
令46条第2項 ルート 2階 建て		S-10b
DRAWING TITLE	SCALE	
基礎断面図	S=1/30	

構造設計者 ダイガク二級建築士事務所
二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号
二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学

DRAWING BY :
DATE :

施主承諾	營業	設計	工事	訂正図面作成日
				訂正日 H
				訂正日 H
				訂正日 H
				訂正日 H

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm² スランプ 18 cm

鉄筋：D10～D16:SD295

※ S-01を要確認

■ 鉄筋のかぶり厚さ（単位：mm）

構 造 部 分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基 礎（捨コンクリート部分を除く）	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定 着 の 長 さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃)	
			床・屋根スラブ	
SD295	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継 手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない

2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする

3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする（重ね継手（下図のいずれかのように）にずらす）

L₁

1.5L₁以上

L₁

約0.5L₁

※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。

2段主筋間隔(芯々)

60mm

2段主筋間隔(芯々)

60mm

設計かぶり50 (最小かぶり40)

設計かぶり50 (最小かぶり40)

設計かぶり40 (最小かぶり30)

設計かぶり70 (最小かぶり60)

2段主筋間隔(芯々)

60mm

2段主筋間隔(芯々)

60mm

スラブ筋定着 10dかつ150mm以上 D13→150mm以上

重ね継手 40d以上

立上り筋定着 35d以上 D10→350mm

※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着、継手を設けることとする。
認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。
認定ユニット鉄筋の評定を順守すること。
※基礎断面図はユニット鉄筋として作図してあります。
※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。
床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。
※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。
※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。
①不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、
型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
②根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
③根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水してしまうおそれがある場合は散水する。
④規定のスラブ厚を確保する。

FGu23 E-E' 断面

▽1FL

▽設計GL

605

75

455

75

5-D16

D13 @200 ST：口の手

5-D16

段取り鉄筋

200

420

250

150

50

100

50

200

50

100

150

370

段取り鉄筋ユニット工法評定
ST:D13 @200と段取り鉄筋D10を溶接
主筋5-D16は現場結束とする
※段取り鉄筋の使用は施行者判断

※スラブ主筋の上下は書き分けていません

FGu23 F-F' 断面

▽1FL

▽設計GL

150

75

75

75

75

150

1-D13

D10 @200 D10@300

1-D13

D10 @200 D10@300

4-D13

D13 @200 ST：口の手

4-D13

段取り鉄筋

増打ち

20

105

600

50

370

150

100

455

4,550

455

5,460

ガレージ

※スラブ主筋の上下は書き分けていません

FGu5 人通口 W=873.75

▽1FL

▽GL

873.75

300

A>100の場合 D10(フック付補強筋)
A≤100の場合 設置不要

A>100の場合 D10(フック付補強筋)
A≤100の場合 設置不要

2-D13+内部立上り下端筋 (定着長さ40d) (S-02配筋詳細参照)

40d(520mm)以上

873.75

40d(520mm)以上

人通口補強筋 2-D13

スラブ筋

内部立上り 下端筋

伏図

主筋

内部立上り下端筋+2-D13

FGu5A 人通口 W=873.75

▽1FL

▽GL

873.75

300

A>100の場合 D10(フック付補強筋)
A≤100の場合 設置不要

A>100の場合 D10(フック付補強筋)
A≤100の場合 設置不要

4-D13+内部立上り下端筋 (定着長さ40d) (S-02配筋詳細参照)

40d(520mm)以上

873.75

40d(520mm)以上

人通口補強筋 4-D13

スラブ筋

内部立上り 下端筋

伏図

主筋

内部立上り下端筋+2-D13

ダイガク

二級建築士事務所

構造設計者 ダイガク二級建築士事務所
二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号
二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学

DRAWING BY :

DATE :

施主承諾

営業

設計

工事

訂正図面作成日

MEMO

PROJECT TITLE

令46条第2項ルート 2階建て

DRAWING TITLE

基礎断面図

SCALE

S=1/30

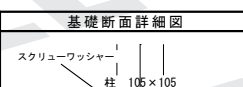
SHEET NO

S-10c

基礎伏図凡例					※下記耐力と同等以上の金物も使用可能
記号	項目	頭だし	芯より	埋込長さ	
○	M12 アンカーボルト A-40同等品 M12×400 ※M12 HD時は芯より200mm 土台継手時は芯より300mm	基礎天+120mm	芯より150mm ※200mm	250mm以上	
● HD20 HD25 HD35 HD40	異形Sアンカーボルト L=550 (分カ)	基礎天+350mm	芯より83mm	200mm以上	
● HD20枠 HD25枠 HD35枠 HD40枠	異形Sアンカーボルト L=550 (分カ) ※縦枠材厚45mmを想定し設計しております	基礎天+350mm	芯より128mm	200mm以上	
● HD20 HD25 HD35 HD40	異形Sアンカーボルト L=800 (分カ) ※筋違い端部(新・つくば耐力壁内を含む)を想定	基礎天+600mm	芯より83mm	200mm以上	
△	土台継手位置				
■	基礎(クレー部)：天端高さがGL+650				

※特記無き限り下記による		
※ 防湿フィルム 0.1mm以上 ※ 特記なき限り下記による。 アンカーボルト(M12,柱芯から150離れ,@2,000以下) ※ 特記なき人通口の幅 600mm とする。 ※ スラブ筋重ね継手の定着長さは40d以上とする。 ※ 根切り時(砕石を敷く前)、根切底を充分に転圧する。 ※ コンクリートの設計基準強度：21N/mm ²		
	床排水	(汚)：汚水排水管 (雑)：雑排水管

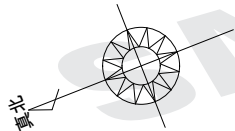
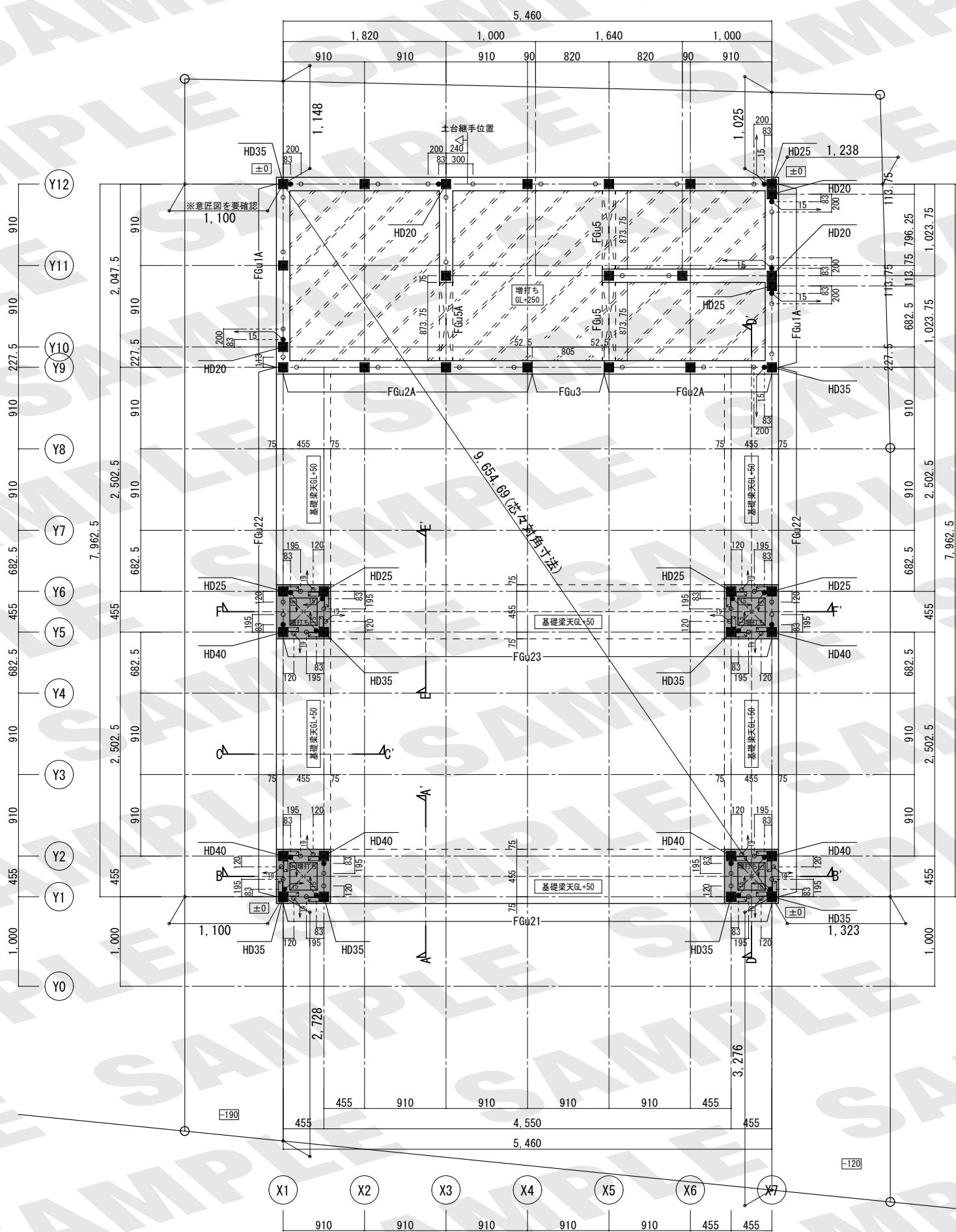
地耐力
長期設計地耐力 fe=24.0 kN/m ² ※ 施工前に敷地内に於いてスウェーデン式サウンディング等の地盤調査を行い、支持層及び地耐力を確認する。 地耐力が24.0kN/m ² 以上に満たない場合は地盤改良を行う。

基礎断面詳細図	
	※既設RC擁壁・既設石積・既設ブロック土留については、クラック・水抜き等支障なく安全である(意匠設計者)(新設RC擁壁・石積・ブロック土留についても同じ) ※構造設計者は意匠設計者の判断に従い、擁壁等は構造的に問題なしとし安息角を考慮せず、基礎等の設計を行います ※構造設計者はこれらについては責任を負いません

- ※ 特記なきスラブは FS1 とする。
※ 特記なき外部基礎立上りは FGU1 とする。
※ 特記なき内部基礎立上りは FGU2 とする。
※ 特記なき基礎スラブ天端は GL+50 とする。
※ 特記なき外周部基礎立上りの芯振分けは75mm/75mm とする。
※ 特記なき内部基礎立上りの芯振分けは75mm/75mm とする。

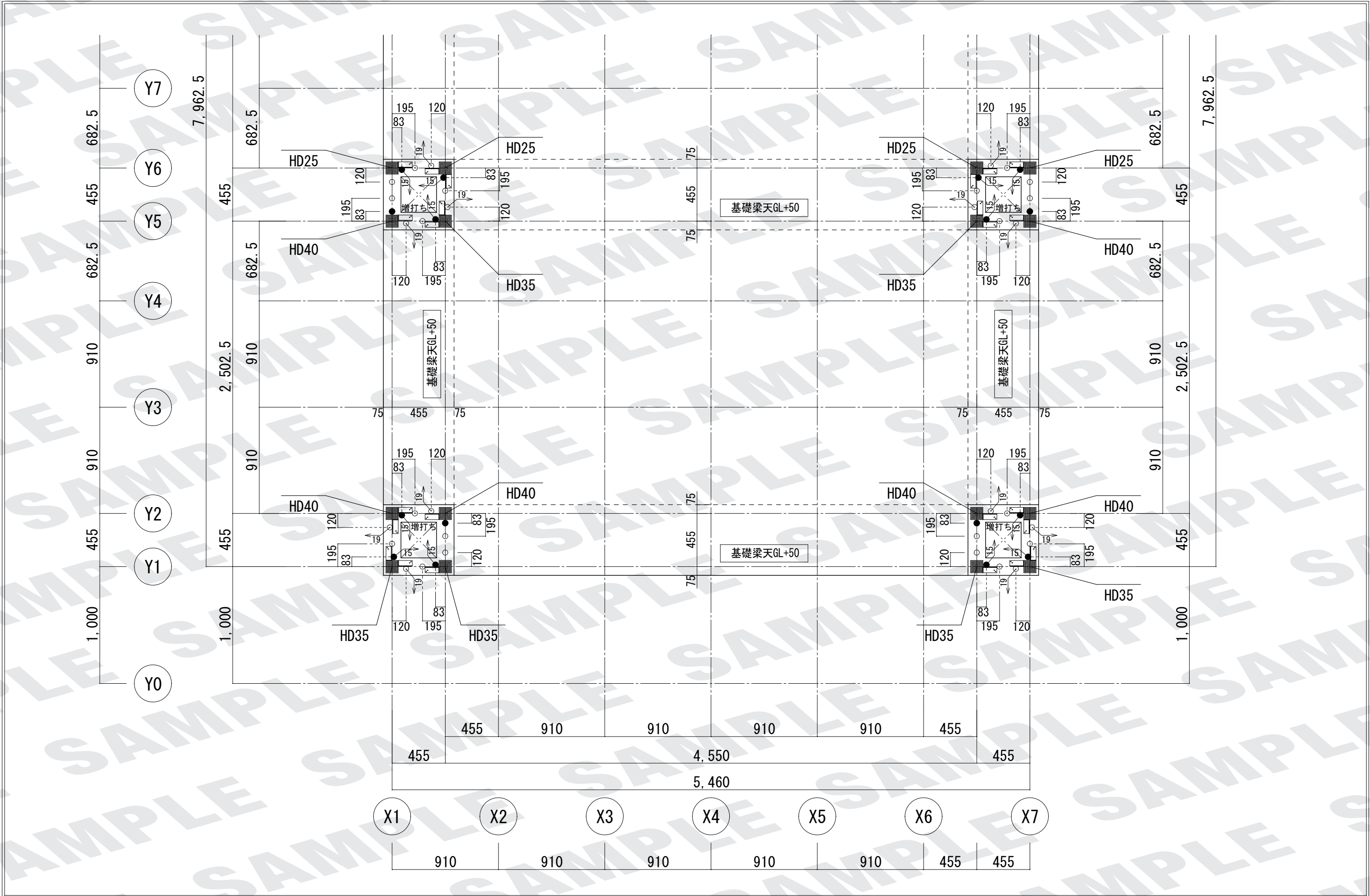
±0：設計GL±0を示す

※外周部の主要な出隅部は、HD20以上を取りつける(計算結果に拘らず)



耐震等級3

				施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
								訂正日 H		令46条第2項ルート 2階建て 基礎伏図	S-11
								訂正日 H			
								訂正日 H			
								訂正日 H			
構造設計者 ダイガク二級建築士事務所 二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号 二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学				DRAWING BY :						DRAWING TITLE	SCALE S=1/55
				DATE :							



ダイガク 二級建築士事務所 構造設計者 ダイガク二級建築士事務所 二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号 二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学 DRAWING BY : DATE :			施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
							訂正日 H		令46条第2項ルート 2階建て	S-11a
							訂正日 H		DRAWING TITLE	
							訂正日 H		基礎伏図(施行用)	
							訂正日 H		SCALE	
									S=1/30	

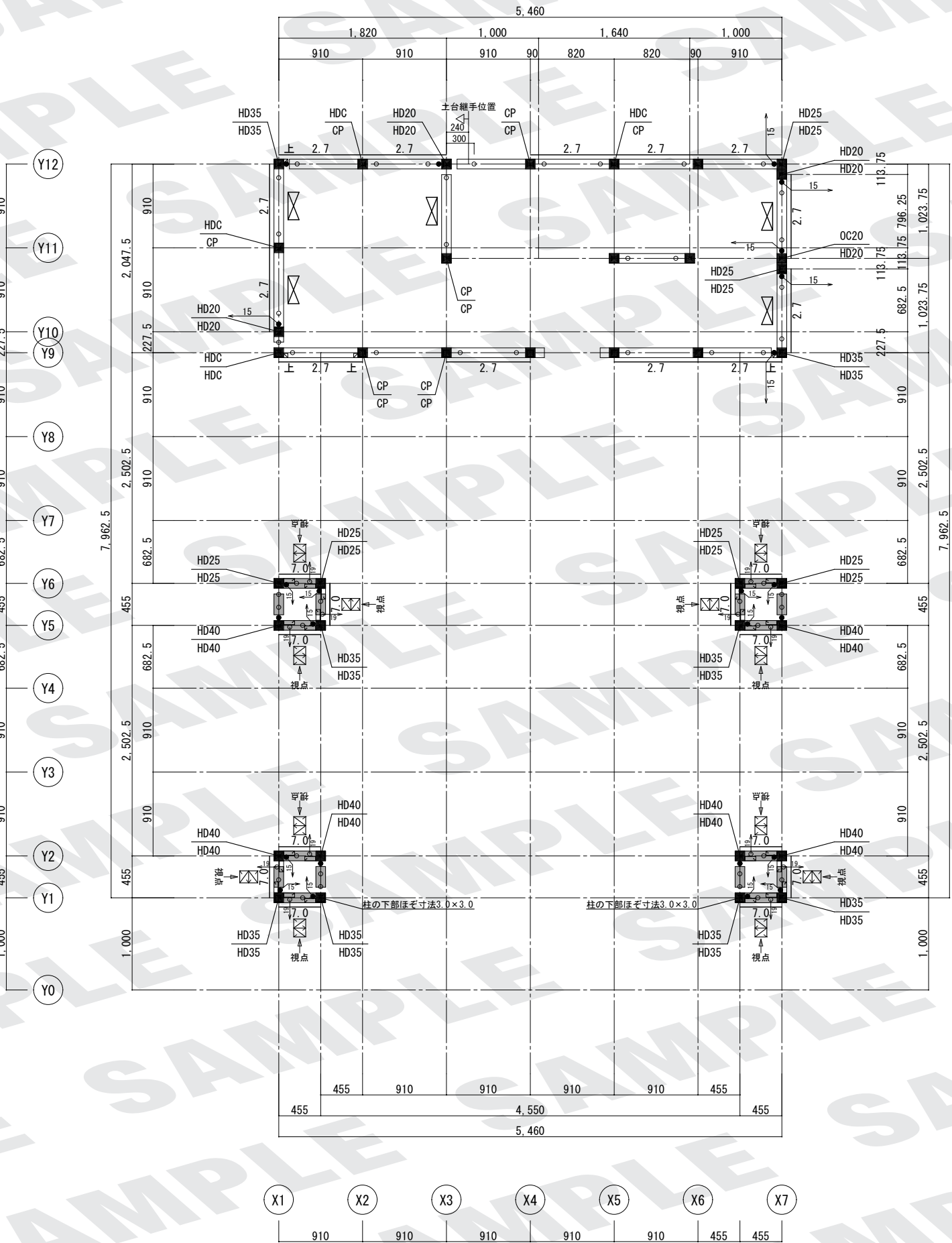
土 台 伏 図 凡 例			※特記無き限り下記による
記号	種 類		
	土台(注入) (105×105)	(桧・米松) KD 無等級材	
	土台(ケレ部)：天端高さが通常の土台より+250mm		
	大引(注入) (90×90)	(桧・米松) KD 無等級材	
	鋼製束	使用基準による	
	管柱 (105×105)	杉集成 E65-F255 同一等級 (WW・RW・唐松・桧・ミヅマ)集成 E95-F315 同一等級	
	告示1898号に適合する材料を使用すること 特記なき柱のホソ寸法は 8.6cm×3.0cm以下とする。		
	床板(1階)	構造用合板 t=24 (釘打ち N75@150以下)	
※GLからの高さが1m以内の外壁の軸組、木質系の下地材は現場にて防腐・防蟻処理を行う			
※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する			

柱脚・柱頭金物種類 (在来工法)				※下記耐力と同等以上の金物も使用可能
符号	種 類	耐力 (KN)	備 考	
CP	コンパクトナー	5.0	※金物は別の製品を想定しています	
HDC	シナコーナー	10.0	L型接合金物を想定 1階柱脚は土台が7.0kNで先行破壊 7.0kN超はM12用座金×2層もしくはHD20で対応	
HD20 枠	ビス止めホルダウN20 枠材用ビス止めホルダウHi-M	20.0		
HD25 枠	ビス止めホルダウN25 枠材用ビス止めホルダウHi-M	25.0		
HD35 枠	ビス止めホルダウN35 枠材用ビス止めホルダウHi-L	35.0	M16アナカーの埋め込み長さを要確認 Zマク品は耐力25kN以下を想定 両引き部は高耐力両サマ75.3kNを使用すること M16アナカーは異形アナカーを使用すること	
HD40	ビス止めホルダウHi43	40.0		
OC20	オメガコーナー20	21.7	※OC20は、同一仕口での2個使いはしない	
※特記なき柱頭・柱脚には CPを取付けること				

耐 力 壁 凡 例			
記 号	倍 率	耐力壁の種類	
	2.0	筋違(シングル)	45×90 柱頭 柱脚
	4.0	筋違(タスキ)	45×90
	2.7	タイガーEXハイパー (標準(壁勝))	(FRM-678)
	2.2	タイガーEXハイパー (床勝ち)	(FRM-0679)
	2.5	タイガーEXハイパー (入隅(枠材仕様))	(FRM-0680)
	2.5	構造用合板 t=9mm 受材真壁 (告示1100号)	
	7.0	新・つくば耐力壁 X型 BCJ評定LW0104-03(筋違いのみ) 横架材間内法寸法 S 7.00倍 筋違い45×105	
※併用する場合は、上記倍率を加算する。 ※タイガーEXハイパーの釘はNZ50とし、外周@75mm、内通@150mmとする ※構造用合板の釘はN50とし、外周@150mm、内周@150mmとする ※構造用合板 受材真壁の受材45×45は、N90釘@300以下で柱に留め付ける ※一般壁(非耐力壁)の釘は 外周は@150、内周@300とする			
※金物を同等以上の金物に変更するときは基礎伏図のM16アナカー位置を確認すること。 ※金物は仕様箇所によって床合板仕様・枠材仕様品を使い分ける。 ※コーナープレート系の金物は枠材の上には施工しないこと。実験等で安全を確認したものを除く。 取りつかない場合は、金物をラングアップしHD20で対応すること ※柱脚のホルダウ金物を枠材仕様にする時はM16の離れ寸法を要確認。 ※筋交いプレートの取り付け部材(土台、柱、梁、筋交い)の樹種が、 同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること (特に筋交いに米松、桐以外の材種を用いる場合は注意すること) ※筋交い及び筋交いプレートは柱に取り付ける(枠材に取り付けない)			

※外周部の主要な出隅部は、HD20以上を取りつける(計算結果に拘らず)

□：枠材 45×105を示す
□：枠材 45×96/95を示す
□：枠材 45×45を示す
□上：枠材 45×45を示す
(上部のみに施工 欠損部の補強用)



耐震等級3

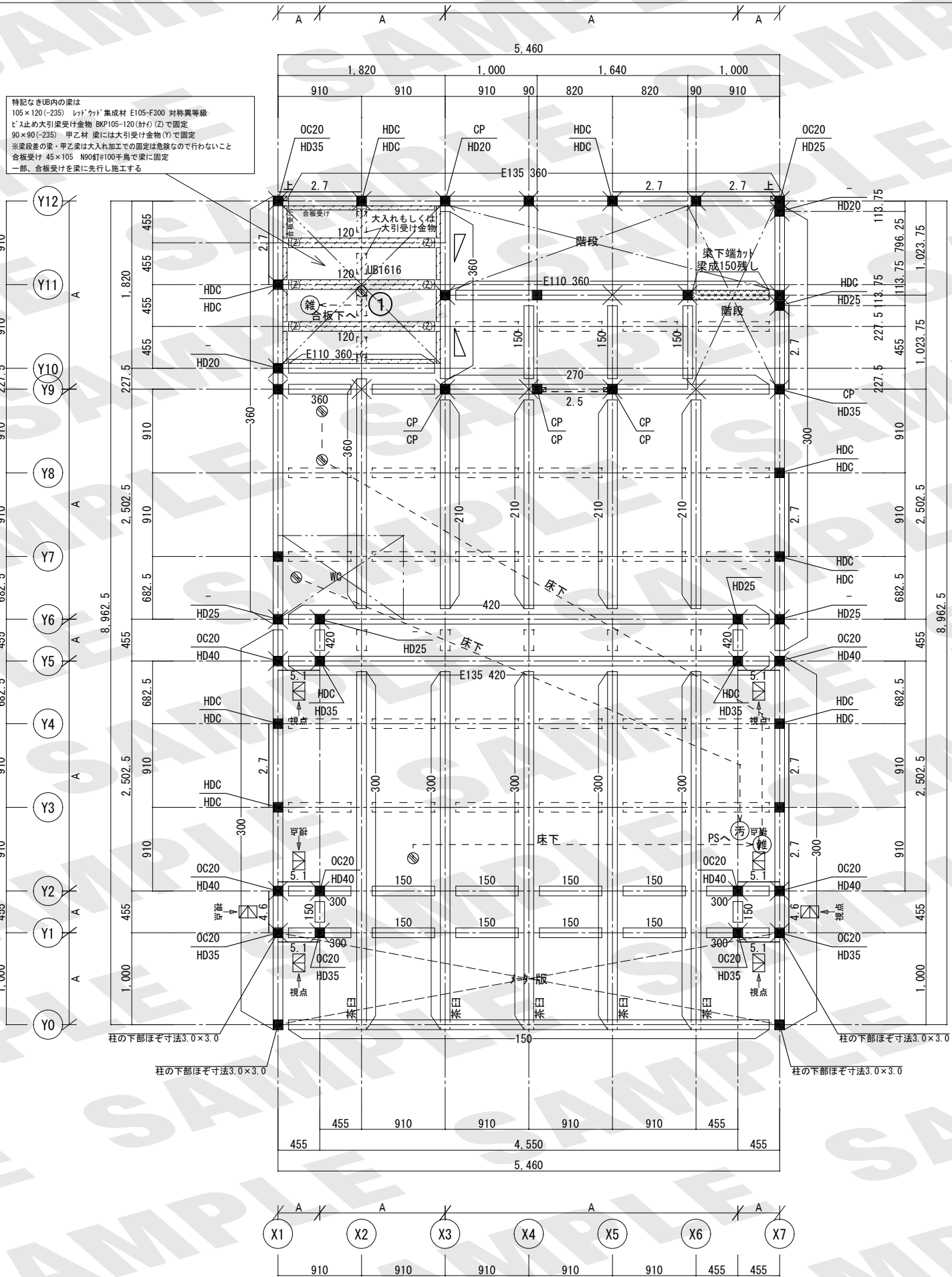
ダイガク 二級建築士事務所	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所 二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号 二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学	DRAWING BY : DATE :	施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	令46条第2項ルート 2階建て 土台伏図	SHEET NO S-12
							訂正日 H				
							訂正日 H				
							訂正日 H				

2 階 床 伏 図 凡 例		
※特記無き限り下記による		
記号	種 類	
■	管柱 (105×105)	杉集成 E65-F255 同一等級 (WW・RW・唐松・桧・エノマツ)集成 E95-F315 同一等級
	告示1898号に適合する材料を使用すること	
	特記なき柱のホゾ寸法は 8.6cm×3.0cm以下とする。	
×	下階の柱	
105×()	梁	特記なき梁成は 105×105とし、 樹種はレッドウッド集成材 E105-F300 対称異等級とする ※ E110:米松KD E110(JAS) 機械等級区分 ※ E135:米松集成 E135-F375 対称異等級 ※ E150:米松集成 E150-F435 対称異等級
〔 ー ー ー 〕		告示1898号に適合する材料を使用すること (米松・米桐・桧)KD 無等級 レッドウッド集成 E105-F300 対称異等級
〔 ー ー ー 〕		構造用合板 t=24 (釘打ち N75@150以下) ※UB設置範囲の構造用合板はt=24とする
	床板 (2階)	※UB設置範囲の構造用合板はt=24とする

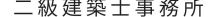
柱脚・柱頭金物種類 (在来工法)			
※下記耐力と同等以上の金物も使用可能			
符号	種 類	耐力 (KN)	備 考
CP	コンパクトコーナー	5.0	※金物はJICAの製品を想定しています
HDC	シナコーナー	10.0	L型接合金物を想定 1階柱脚は土台が7.0kNで先行破壊 7.0kN超はM12用座金×2個もしくはHD20で対応
HD20	ビス止めホルダウN20	20.0	
HD20枠	枠材用ビス止めホルダウHi-M		
HD25	ビス止めホルダウN25	25.0	
HD25枠	枠材用ビス止めホルダウHi-M		
HD35	ビス止めホルダウN35	35.0	M16アッカーの埋め込み長さを要確認 Zマーカー品は耐力25kN以下を想定 両引き部は高耐力両引きM175.3kNを使用すること M167シナは異形アッカーを使用すること
HD35枠	枠材用ビス止めホルダウHi-L		
HD40	ビス止めホルダウHi43	40.0	
OC20	オメガコーナー20	21.7	※OC20は、同一仕口での2個使いはしない

耐 力 壁 凡 例			
記 号	倍 率	耐力壁の種類	
△	2.0	筋違 (シングル)	45×90 柱頭 △ 柱脚
⊠	4.0	筋違 (タスキ)	45×90
2.7	2.7	タイガーEXハイパー (標準 (壁勝))	(FRM-678)
2.2	2.2	タイガーEXハイパー (床勝ち)	(FRM-0679)
2.5	2.5	タイガーEXハイパー (入隅 (枠材仕様))	(FRM-0680)
2.5	2.5	構造用合板 t=9mm 受材真壁	(告示1100号)
5.1	5.1	新・つくば耐力壁 K型 BCJ評定LW0104-03 (筋違いのみ)	横架材間内法寸法 S 5.09倍 筋違い45×105
4.6	4.6	新・つくば耐力壁 K型 BCJ評定LW0104-03 (筋違いのみ)	横架材間内法寸法 M 4.61倍 筋違い45×105
※併用する場合は、上記倍率を加算する。 ※タイガーEXハイパーの釘はNZ50とし、外周@75mm、内通@150mmとする ※構造用合板の釘はN50とし、外周@150mm、内周@150mmとする ※構造用合板 受材真壁の受材45×45は、N90釘@300以下で柱に留め付ける ※一般壁 (非耐力壁) の釘は 外周は@150、内周@300とする			
※金物を同等以上の金物に変更するときは基礎伏図のM16アッカー位置を確認すること。 ※金物は仕様箇所によって床合板仕様・枠材仕様品を使い分ける。 ※コナプレート系の金物は枠材の上には施工しないこと。実験等で安全を確認したものを除く。 取りつかない場合は、金物をランクアップしHD20で対応すること ※柱脚のホルダウ金物を枠材仕様にする時はM16の離れ寸法を要確認。 ※筋交いプレートの取り付け部材 (土台、柱、梁、筋交い) の樹種が、 同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること (特に筋交いに米松、桐以外の材種を用いる場合は注意すること) ※筋交い及び筋交いプレートは柱に取り付ける (枠材に取り付けない) ※甲乙梁の追加・移動は施行者判断で可とする ※外周部の主要な出隅部は、HD20以上を取りつける (計算結果に拘らず) ※() 内の数値は2階床梁上端からの寸法を示す			

□ : 枠材 45×105を示す
□ : 枠材 45×96/95を示す
□ : 枠材 45×45を示す
□上 : 枠材 45×45を示す
(上部のみに施工 欠損部の補強用)



耐震等級3

ダイガク 二級建築士事務所 構造設計者 ダイガク二級建築士事務所 二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号 二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学				DRAWING BY : DATE :		施主承諾		営業		設計		工事		訂正図面作成日		MEMO		PROJECT TITLE		SHEET NO					
														訂正日 H				令46条第2項ルート 2階建て				SCALE		S-13a	
														訂正日 H											
														訂正日 H											
訂正日 H				DRAWING TITLE		2階床伏図(1)		S=1/55																	

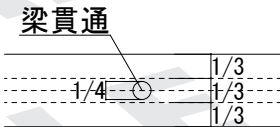
2 階 床 伏 図 凡 例		
※特記無き限り下記による		
記号	種 類	
×	下階の柱	
105×() 	梁	特記なき梁成は 105×105とし、 樹種はレッドウッド集成材 E105-F300 対称異等級とする ※ E110:米松KD E110(JAS) 機械等級区分 ※ E135:米松集成 E135-F375 対称異等級 ※ E150:米松集成 E150-F435 対称異等級 告示1898号に適合する材料を使用すること ※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する

S-10aの水平構面のせん断耐力を示す

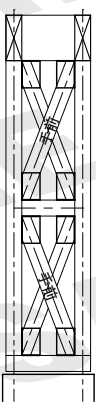
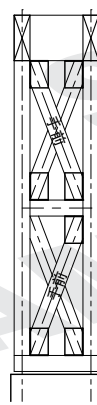
特記なき箇所： 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 ：せん断耐力7.84KN/m

①： 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 ：せん断耐力7.84KN/m
合板を打ち付ける梁がない箇所は
合板受け45×105 N90釘@100千鳥を施工
※同一梁成内の床下げ、せん断耐力は7.84KN/mとする

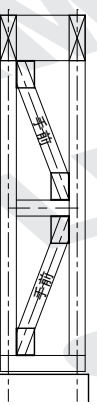
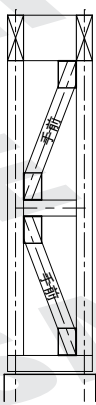
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

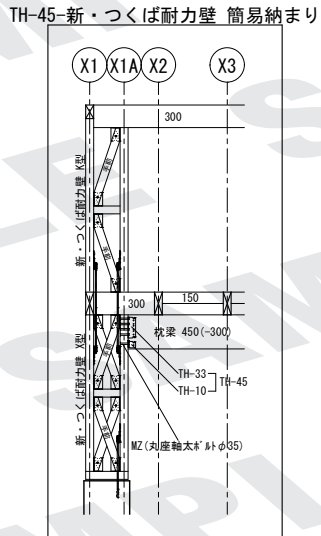
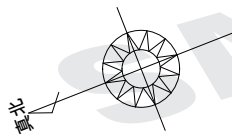
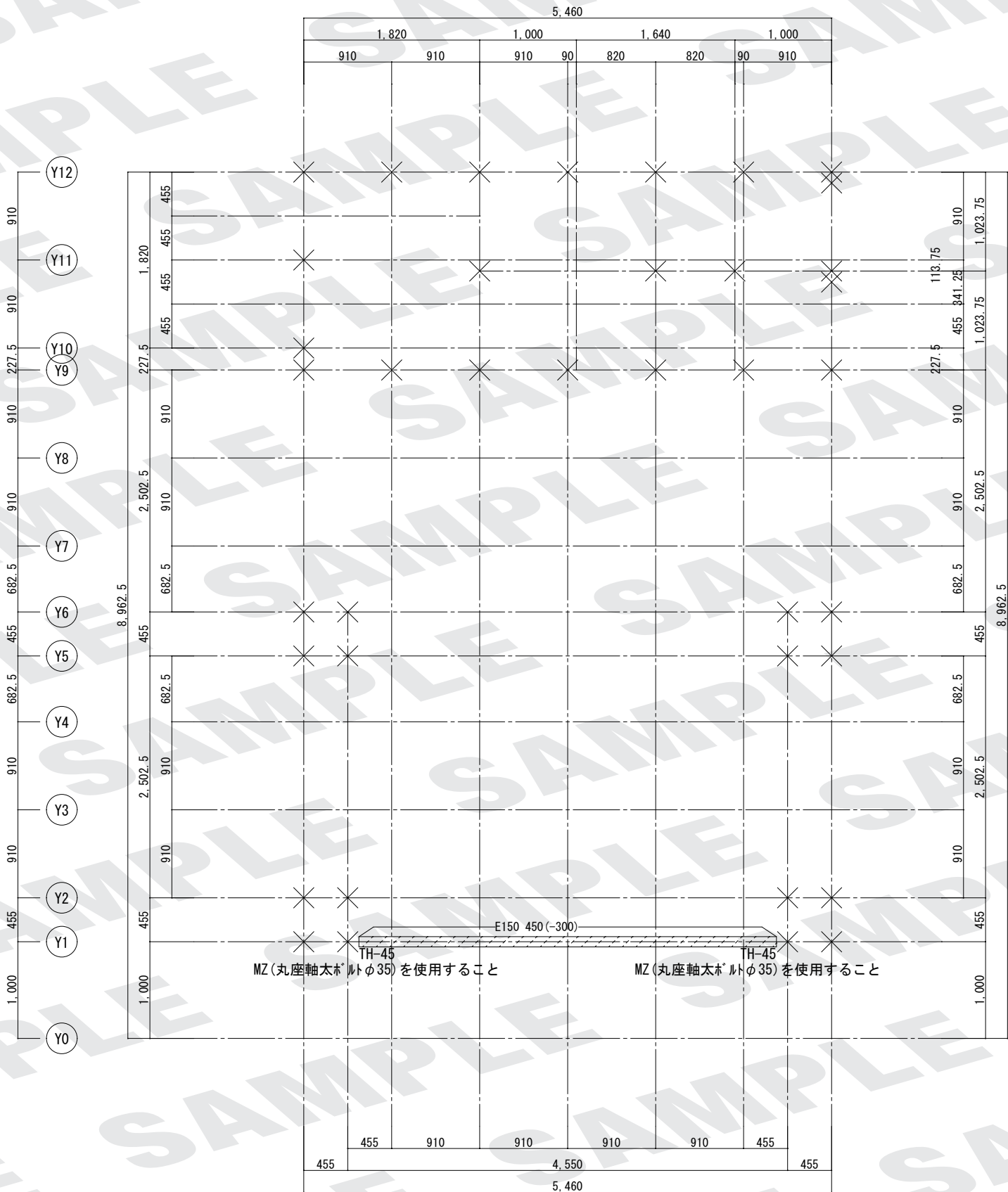


新・つくば耐力壁(筋違い方向)

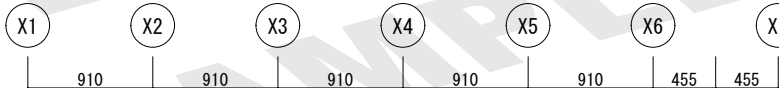
記 号		
	視点	視点
筋違い方向		

新・つくば耐力壁(筋違い方向)

記 号		
	視点	視点
筋違い方向		



※()内の数値は2階床梁上端からの寸法を示す



耐震等級3

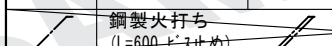


構造設計者 ダイガク二級建築士事務所
二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号
二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学

DRAWING BY :
DATE :

施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO
				訂正日 H	
				訂正日 H	
				訂正日 H	
				訂正日 H	

PROJECT TITLE		SHEET NO
令46条第2項ルート 2階建て		S-13b
DRAWING TITLE		
2階床伏図(2)		SCALE S=1/55

小屋伏図凡例		
※特記無き限り下記による		
記号	種 類	
×	下階の柱	
105×() 	梁	特記なき梁成は 105×105とし、 樹種はレッドウッド集成材 E105-F300 対称異等級とする ※ E110:米松KD E110(JAS) 機械等級区分 ※ E135:米松集成 E135-F375 対称異等級 ※ E150:米松集成 E150-F435 対称異等級
≡≡≡	甲乙材 (45×90)	告示1898号に適合する材料を使用すること (米松・米桐・桧)KD 無等級 レッドウッド集成 E105-F300 対称異等級
○	束 (105×105)	(杉・米松・米桐・桧)KD 無等級
	床板	構造用合板 t=24 (釘打ち N75@150以下)
	鋼製火打ち (L=600 ビス止め)	木製火打ち 90×90 (米松KD材・無等級)
※軒梁から屋根面までタイガ-EXハイパー t=9.5 張りとする 釘ピッチ等は耐力壁仕様と同様とする ※ 特記なき柱(束)には CPを取付けること。		

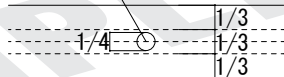
※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する

横架材端部接合物 S-10a, S-11共通		※特記無き限り(A)	引張耐力
※下記耐力と同等以上の金物も使用可能			
(A)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、又は、短冊金物		10.0
(B)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2		15.0
(C)	ホームプレート(同等品)×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×2		20.0
(D)	ホームプレート(同等品)×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×3		25.0
(Y)	大引受け金物		
(Z)	ビス止め大引梁受け金物 BKP105-120(ｶｷｲ)		
TH-45	ファイブ P3(株式会社P3) TH-45-TH-33+TH-10 ※MZ(丸座輪太) 11φ35)を使用すること	柱材・梁材共(杉KD)の耐力	柱・梁 23.5

水平構面のせん断耐力を示す

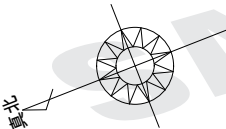
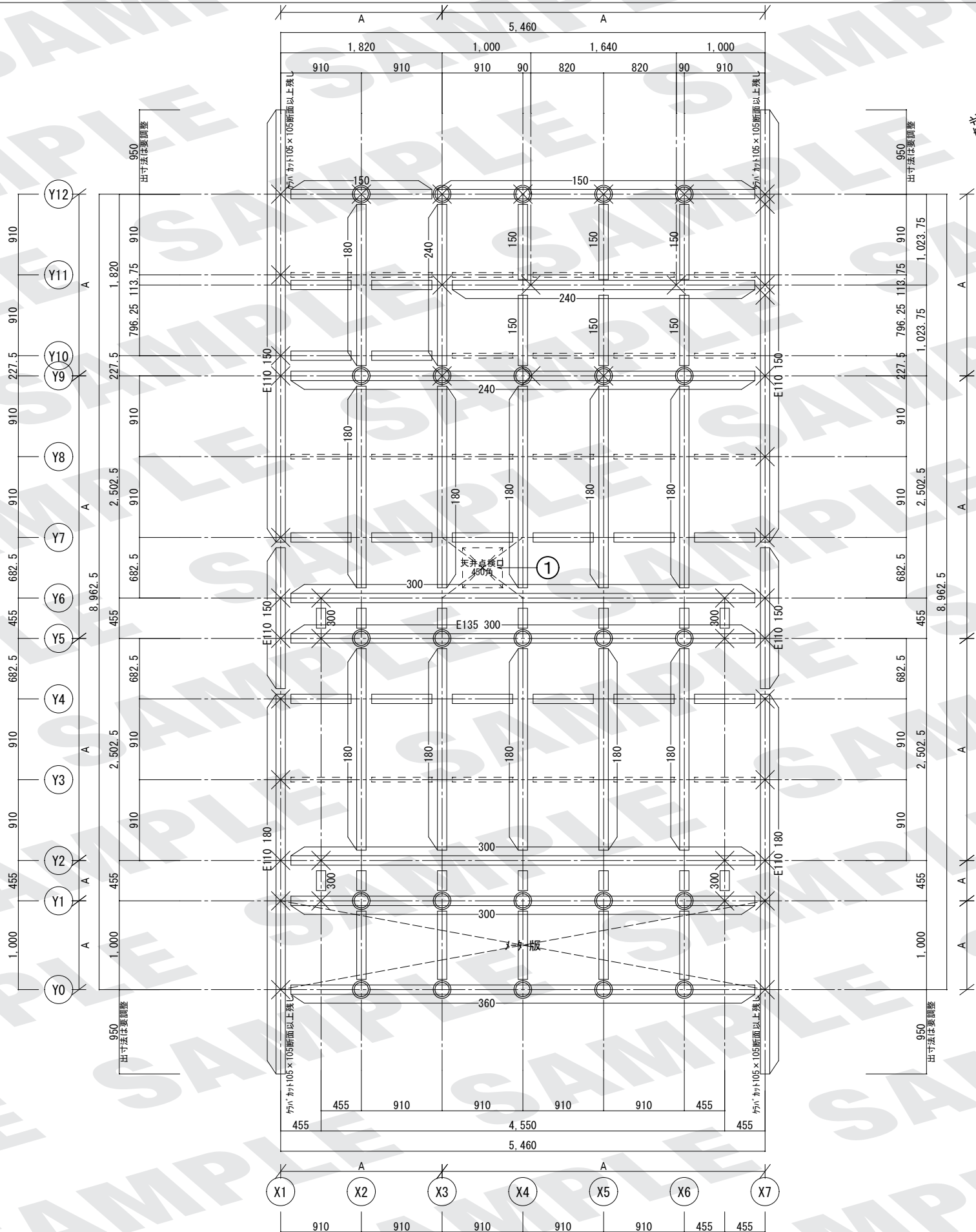
特記なき箇所： 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 ：せん断耐力7.84KN/m
※屋根のせん断耐力は折半屋根の為に、評価出来ない
① 天井点検口部は床剪断耐力を0とする

梁貫通



※無垢材、LVL材のみ適用可(異等級材が適用不可)
梁貫通箇所は梁の上下1/3の箇所は避け、最大の貫通口径は梁成の1/4以下とする

※小屋梁は部材断面、材料強度の変更に関しては、安全側への変更を許容し、
強度が高い樹種への変更は可能とする
(PH階の耐力壁が載る梁は除く)
※甲乙梁の追加・移動は施行者判断で可能とする)
※()内の数値は軒桁上端からの寸法を示す。



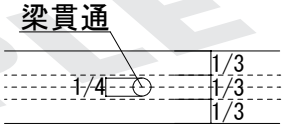
耐震等級3

	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所 二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号 二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学	DRAWING BY : DATE :	施主承諾	営 業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	令46条第2項ルート 2階建て		SHEET NO S-14	
							訂正日 H						
							訂正日 H			DRAWING TITLE			SCALE
							訂正日 H			小屋伏図	S=1/55		

母屋伏図凡例			※特記無き限り下記による
記号	種 類		
✕	(下階の束)		
105×() 断面図	棟木, 母屋隅木, 谷木 登梁	特記なき梁は 105×105とし 樹種は米松KD 無等級 もしくは 米松KD E110 (JAS) 機械等級区分とする	

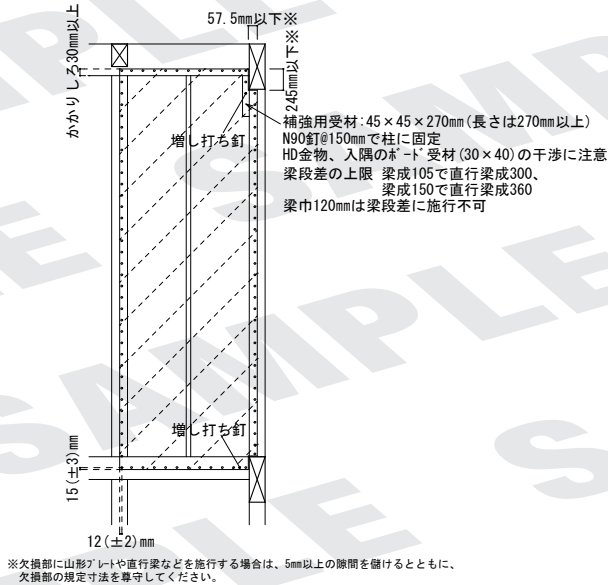
※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する

- ※ 小屋組には適切に振れ止め（雲筋交い等）を設ける
小屋組内部において、以下の構造補強措置を3,640mm以内毎、かつ極力直下階の耐力壁線上に設けること
A：雲筋交い（t15×90以上）N50釘2本打ちを設ける
B：3,640mmを超える場合、ダブル雲筋交いとする
C：雲筋交いが施工出来ない場合は、面材耐力壁を屋根面まで立ち上げ補強する
- ※ 雲筋交いは15x90以上の材を使用し、小屋梁及び小屋束交差部をN50釘2本ずつにて留め付けるものとする。

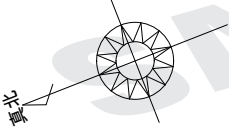
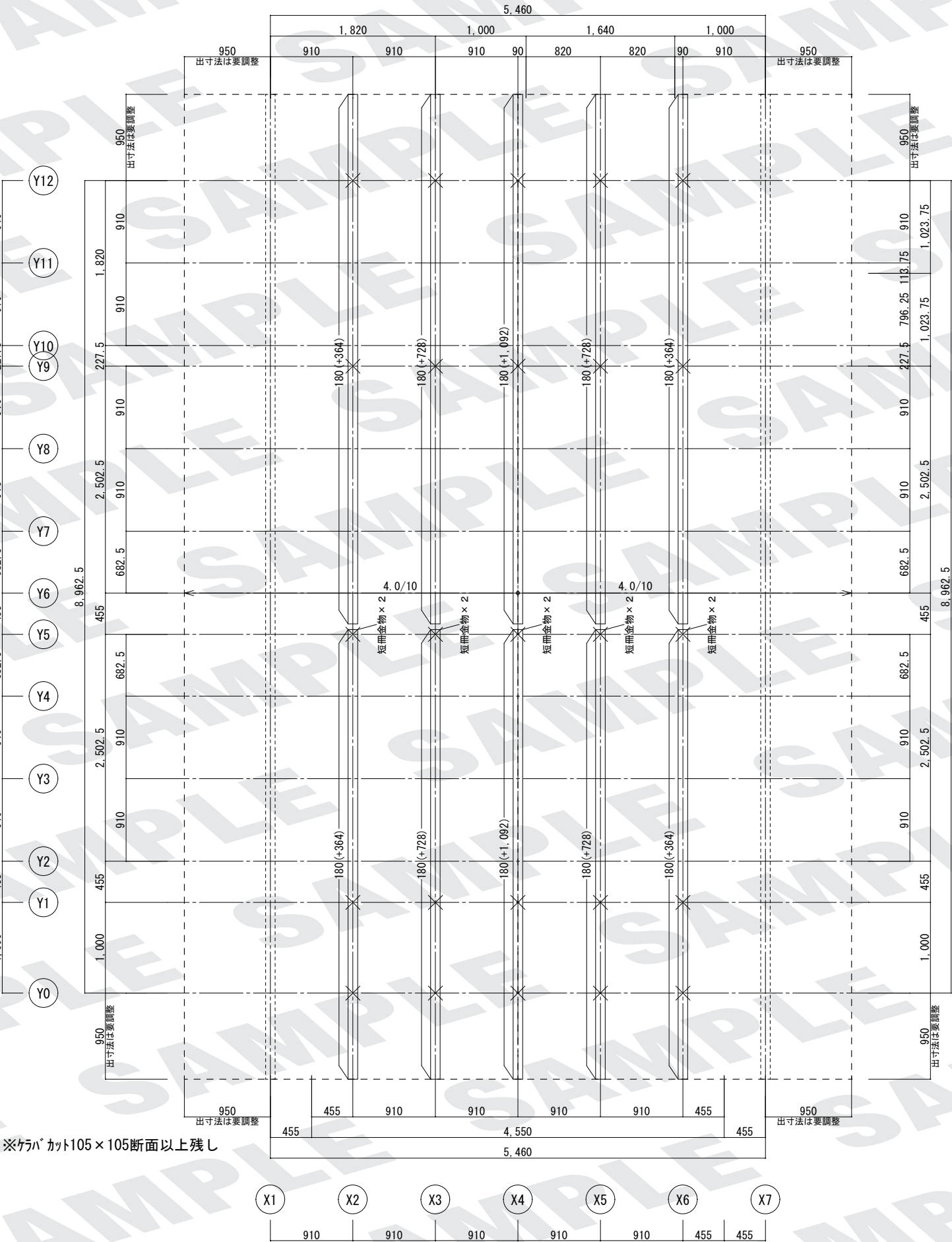


※無垢材、LVL材のみ適用可（異等級材が適用不可）
梁貫通箇所は梁の上下1/3の箇所は避け、最大の貫通口径は梁成の1/4以下とする

タイガ-EXハイパ-欠損部の補強



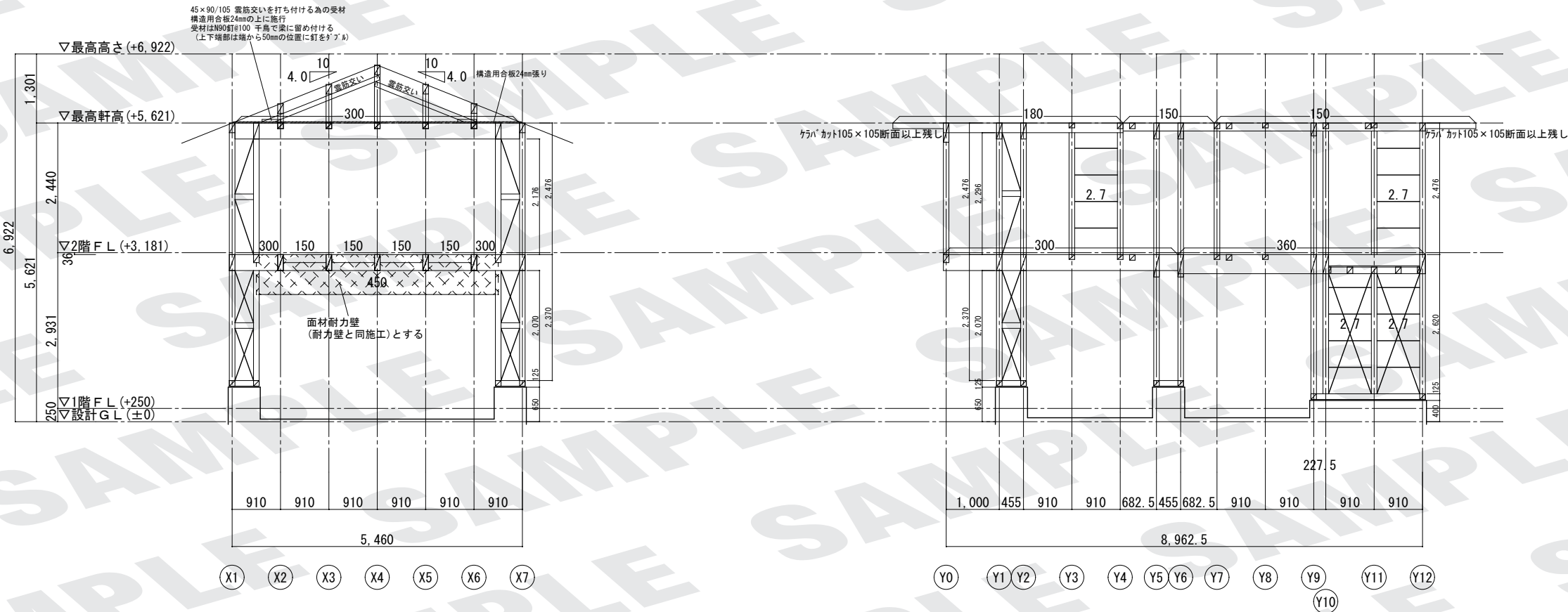
※ケラバカット105×105断面以上残し



耐震等級3

※屋根ふき材は昭和46年 建設省告示109号の構造方法に従うこと（施行令39条第2項）
※()内の数値は軒桁上端からの寸法を示す。

				施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE		SHEET NO
ダイガク 二級建築士事務所 構造設計者 ダイガク二級建築士事務所 二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号 二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学								訂正日 H		令46条第2項ルート 2階建て		S-15
								訂正日 H				
								訂正日 H		母屋伏図		
								訂正日 H				
				DRAWING BY :						SCALE		
				DATE :						母屋伏図	S=1/55	



記 号	倍 率	耐力壁の種類
	2.0	筋違(シングル) 45×90
	4.0	筋違(タスキ) 45×90
	2.7	タイガーEXハイパー (標準(壁勝)) (FRM-678)
	2.2	タイガーEXハイパー (床勝ち) (FRM-0679)
	2.5	タイガーEXハイパー (入隅(枠材仕様)) (FRM-0680)
	2.5	構造用合板 t=9mm 受材真壁 (告示1100号)
	7.0	新・つくば耐力壁 X型 BCJ評定LW0104-03(筋違いのみ) 横架材間内法寸法 S 7.00倍 筋違い45×105
	5.1	新・つくば耐力壁 K型 BCJ評定LW0104-03(筋違いのみ) 横架材間内法寸法 S 5.09倍 筋違い45×105
	4.6	新・つくば耐力壁 K型 BCJ評定LW0104-03(筋違いのみ) 横架材間内法寸法 M 4.61倍 筋違い45×105
※併用する場合は、上記倍率を加算する。 ※タイガーEXボードの釘はNZ50とし、外周@75mm、内通@150mmとする。 ※構造用合板の釘はN50とし、外周@150mm、内周@150mmとする ※一般壁(非耐力壁)の釘は 外周は@150、内周@300とする		

特記なき事項は下記による

面材耐力壁	タイガーEXハイパー [®] t=9.5mm
釘打方法	タイガーEXハイパー [®] の釘はNZ50とし、外周@75mm、内通@150mm
※耐力壁の倍率は、各階伏せ図を参照する事。	
有効細長比 (各階最大)	2階: λ = 80.404
	1階: λ = 77.438 (最大 X4Y9)

※屋根ふき材は昭和46年 建設省告示109号の構造方法に従うこと(施行令39条第2項)
※杉 無等級材より基準強度が劣る材(構造材以外も含む)を用いる場合は以下に注意すること
金物が同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること(耐力壁の認定も含む)
杉 無等級材より基準強度が劣る材では安全性を確保出来ない可能性があります

ダイガク 二級建築士事務所 構造設計者 ダイガク二級建築士事務所 二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号 二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学 DRAWING BY : DATE :			施主承諾	営 業	設 計	工 事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE		SHEET NO				
							訂正日 H		令46条第2項ルート 2階建て						
							訂正日 H		DRAWING TITLE						
							訂正日 H		軸組図						
								訂正日 H		SCALE	S-16				
								訂正日 H		S=1/100					